

## AHP 性能試験要領 修正内容

### AHP 性能評価表

1. 基本性能 4) 評価値

$$\square \geq \text{理論値} = \quad (\text{N/mm}^2)$$

下記に修正

$$\square \geq \text{理論値}^* = \quad (\text{N/mm}^2)$$

\*  $\text{Min}(Q_1 \text{ or } Q_2)$  次頁の付参照

### 付 面外せん断試験によりせん断破壊させるための試験体の設計

下記の内容に全面差換え

### 付 面外せん断試験によりせん断破壊させるための試験体の設計

- ・試験体の材軸は W 方向とする。
- ・試験結果の評価は次式による。

$$Q_{max} \geq Q_1 \text{ or } Q_2$$

$Q_{max}$  : 曲げせん断試験による  
最大耐力の最低値

$Q_1$  : コア材の設計耐力

$Q_2$  : 設計接着耐力

- ・試験体は以下の条件により設計する。

$$Q_0 \geq Q_1' \text{ or } Q_2'$$

$Q_0$  : 曲げ耐力時のせん断力  $M_y / \ell$

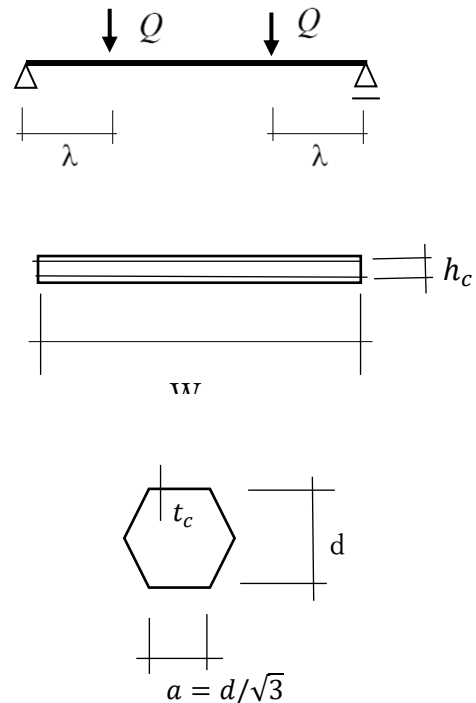
$M_y$  : 降伏曲げモーメントの  
理論値ZF

$Q_1'$  : コア材の最大耐力

$Q_2'$  : 接着耐力の最大評価値

- ・コア材耐力は座屈後耐力  $Q_u$  による。

$$Q_u = \sigma^* A_{sd} W F_s$$



$$\sigma^* = \frac{\sqrt{0.45k}}{\lambda}$$

$$A_{sd} = h_c t_c \frac{2}{d\sqrt{3}}$$

設計耐力 $Q_1$ はピン支持条件の $Q_u$ で評価する。

$$k = 4 / \left( \frac{h_c}{a} \right)^2 + 5.34$$

最大耐力 $Q_1'$ は固定条件の $Q_u$ で評価する。

$$k = 6 / \left( \frac{h_c}{a} \right)^2 + 9$$

・コア材の接着耐力 $Q_m$ は次式による。

$$Q_m = h_c W_A F_s'$$

$$_A F_s' = \bar{\alpha} _A F_t'$$

設計耐力 $Q_2$ は $Q_m$ の $\bar{\alpha}$ 値を次式で評価する。

$$\bar{\alpha} = 0.5$$

最大耐力 $Q_2'$ は $Q_m$ の $\bar{\alpha}$ 値を次式で評価する。

$$\bar{\alpha} = 1.3$$

上式は基本強度 $_A F_t'$ をフラットワイズ引張強さ $\sigma_u$ に置き換え、引張強さとせん断強さの比を0.8として換算した値である。

・試験体の寸法について

せん断スパン $\lambda$ 内にあるハニカム(六角形状)の個数を15~20程度とする。

$$\lambda > 15d$$